

犯罪の原因，非行・犯罪からの立ち直り，災害と犯罪

Nara Women's University

生活環境科学系・臨床心理学領域　**岡本　英生**　教授　OKAMOTO　Hideo　博士（学術）（神戸大学）

■研究キーワード　犯罪心理学，臨床心理学，犯罪学

■主な所属学会　日本犯罪心理学会，日本心理学会，日本心理臨床学会，日本犯罪社会学会

■研究者総覧　https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.c59bdf0d1ee6649e520e17560c007669.html

研究者総覧

研究概要

犯罪に関して主に心理学的アプローチにより研究を行っています。さまざまな研究を行っていますが，現時点での主要なものは次の3つです。

①なぜ人は非行・犯罪をするのか。
　有能感，共感性，パーソナリティなどの個人的要因と非行・犯罪のしやすさとの関係についての検討など。

②非行少年・犯罪者はどのようにして立ち直っていくのか。
　立ち直る力や方向性の転換など。

③災害と犯罪。
　大規模災害後の被災地における便乗犯罪の発生メカニズムなど。



被災地調査（クライストチャーチ）



学会での報告

アピールポイント

・犯罪は日常に存在します。誰でも被害者になり得ますが，犯罪者になってしまうこともあります。なぜ人は犯罪をするのかということを明らかにすることで，社会で起きる犯罪を減らし，人々が安心して暮らせるようになればよいと考えています。

・非行や犯罪をする人がみな生涯犯罪を続けるわけではありません。とりわけ非行少年の多くは立ち直ることが知られています。しかも，立ち直っている者の多くは何か特別な教育・処遇を受けるわけではなく，いわば自然に立ち直っています。このような立ち直りがどのようにして起きているのかが分かれば，もっと早く立ち直らせることができたり，あるいは立ち直りがむずかしい者を立ち直らせるということができるようになるかもしれません。立ち直り研究というのは非行・犯罪の研究領域の中でもまだ比較的新しい研究領域になりますが，今後の発展可能性の大きい分野です。

・大震災のあとに空き巣が発生したといったニュースを見聞きすることがあると思います。災害と犯罪の関係というのは実は世界的に見てもそれほど研究が進んでいません。災害大国の日本では，大規模災害後の被災地における便乗犯罪への対策が喫緊の課題です。便乗犯罪発生のメカニズムを明らかにして効果的な防犯の方法について提案することをめざしています。